



バンコク便り



1. はじめに

クレジットカード会社大手VISAの調査によると、タイ人が2023年に訪れたい国1位として日本が選ばれました。また旅行に行く目的としてトップだったのは「今まで行ったことがない場所を訪れたい」となっており、東京、京都、北海道等以外の地方への観光拡大が期待されます。荘内銀行が事務局を務める山形県タイ友好協会では今年度の事業としてタイ及び東京からタイ人インフルエンサーを招聘し、山形の魅力的な観光資源を発信して参ります。

2. 現地ビジネス情報（タイにおける医療産業について Vol. 2）

タイは高齢化の進展や医療ツーリズム推進により、国内医療産業および関連する医療機器の需要が大きく高まっております。そこで今回は医療機器の国内生産、輸出入などタイの医療機器市場についてレポートします。

タイの医療機器市場は、2022年には推定3,000億円となり、2018年から2022年にかけての年平均成長率は7.5%と推定されています。また、医療機器の国内生産額は約395億バーツ（約1,540億円）となっており、主に医療用ゴム手袋、注射器、カテーテル、オートクレーブなどの消耗品が生産されています。特に医療用ゴム手袋は世界有数の生産国となっており、コロナ禍により需要が急速に高まったことでタイの大手メーカーの中には収益がコロナ前の2,250%増の144億バーツ（約561億円）に急増した例もあります。

医療機器の輸出に関しては、主に医療用ゴム手袋などの消耗品を輸出しており、2017年以降、輸出額は1,000億バーツ（約3,900億円）を超えています。これらの輸出企業の多くは外国籍企業で、タイをOEM生産拠点として自国向けに輸出しています。

輸入に関しては、主に電気機械装置、眼科用装置、光学機器などの高度な技術を要する医療機器を輸入しており、2019年以降は700億バーツ（約2,730億円）を超えています。タイには消耗品の製造拠点が多い反面、高品質のカテーテルや針製品等は輸入に依存しています。背景として、研究開発に巨額の費用がかかることや、タイ人医師の多くが欧米で医療を学び、欧米の使い慣れた機器を導入している現状があります。

新型コロナの影響によるグローバルサプライチェーンの混乱により、医療機器産業全体の輸出入額は減少しましたが、医療用消耗品の需要は大きく高まりました。また、新型コロナの感染を恐れ大型病院への来院を敬遠する患者が増加したため、小規模クリニック等の開設が増えてきています。医療過疎地における需要の掘り起こしを進めるために、遠隔医療や訪問医療なども行われており、これらの医療施設の拡大は、タイの医療機器市場の活性化に大きく貢献すると予測されています。



3. 現地トピックス（製造業向け展示会 METALEX 開催！）

11月16日～19日までバンコクの展示会場にて、東南アジア最大級の製造業向け展示会 METALEX が開催されました。タイの入国規制やコロナ規制が緩和されたことで期待度も高く、4日間の来場者数は約86,000人と連日盛況だったようです。またAPEC閣僚会議への出席に際して訪タイ中だった西村経済産業大臣が会場を視察し、ジャパンパビリオンを含め出展企業との意見交換を行いました。なお次回は2023年11月22～25日に開催される予定です。他にも来年以降の開催予定が決まっている展示会も多く、今後さらに往来が活発になることが予想され航空券やホテルは、早めのご手配をお勧めいたします。

出展：MeDIU, Krungsri Research



ジャパンパビリオンの様子

【本件に関する連絡先】 荘内銀行営業推進部 地方創生室 軽部・齋藤 023-626-9050